

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3490200049
法人名	社会福祉法人 慈光会
事業所名	グループホームじこう
所在地 (電話番号)	広島県広島市安佐南区高取北一丁目17-41 (電 話) 082-878-8005

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(平成19年9月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年10月1日	
ユニット数	2 ユニット	18人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	PC造り 地上3階建1階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円		その他の経費(月額)	36,000 円	
敷 金	○有(200,000円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無		有りの場合 償却の有無	有／○無	
食材料費	朝食	－ 円	昼食	－ 円	
	夕食	－ 円	おやつ		
	又は1日 1,400円				

(4)利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18 人	男性	4 人	女性	14 人
要介護1	1 人	要介護2	3 人		
要介護3	7 人	要介護4	5 人		
要介護5	2 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	金尾医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームじこうは、社会福祉法人慈光会の長い歴史の中で培った実績や取り組みから得られたノウハウを少数のグループホームにおけるケアを活かしたホームです。「老後に生きがいを」というホーム独自の理念をもとに、個別ケアの充実、アットホームな雰囲気づくり、職員間の連携を具体的な目標として定め、地域福祉の貢献と利用者の人権を尊重する姿勢を大切に、一人ひとりに合わせた支援が行われています。また、地域に開放された施設として、ホームの機能を地域に還元するとともに、利用者ごとに町内会に加入し、地域行事へ積極的に参加するなど、地域とのつながりを大切にした生活づくりが行われている他、その人らしい暮らしを支えるため、園芸や陶芸などの楽しみごとの場面づくりが行われており、単に作業を行うだけでなく、園芸作業でつくった食材を食事の楽しみの一つとしたり、利用者のつくった陶芸作品を玄関に展示するなど、楽しみごとに意味をもたせることで、利用者のその人らしさや活力を引き出すきっかけづくりとされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	第1回目の評価のため、特になし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員によって定期的に開催されている運営委員会において、自己評価をもとに、サービスの質向上に向けた話し合いが行われています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者代表、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター等の参加のもと、2か月に1回開催されています。サービスの実情や自己評価の取り組み等についてさまざまな立場から積極的に意見交換が行われており、協働してサービスの質向上に努められています。今後は、運営推進会議において、外部評価結果の報告についても行い、サービスの質向上に向けた意見やアイデアを参加者からもらい、検討するなど、さらにステップアップした取り組みとされることを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や家族の訪問時などを利用して積極的に意見の汲み取りに取り組まれている他、直接、事業所には言いにくい意見は、家族会を通して伝えてもらうなど、意見が言いやすいよう配慮されており、家族の意見を前向きに捉え、サービスの質の確保・向上に反映されるよう取り組まれています。「家族会」や「家族便り」を通して、家族との交流が積極的に行われていますので、今後も、家族が意見を表しやすい雰囲気づくりや意見が言える選択肢を増やしていく取り組みをすすめられることを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者ごとに町内会に加入し、盆踊りや敬老会、町内清掃などの行事に参加されている他、コンサート、お祭り等のホーム行事への参加を地域に呼びかけるなど、積極的に地域との交流が図られています。また、ホーム内に地域住民が利用できる広場や地域の障害者が働く場所があり、ホームの機能を地域に還元し、地域とともに暮らしていく環境づくりがすすめられています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老後に生きがい」というホーム独自の理念をもとに、個別ケアの充実、アットホームな雰囲気づくり、職員間の連携を具体的な目標として定め、地域福祉の貢献と利用者の人権を尊重する姿勢が大切にされています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員の話し合いのもとで理念、基本方針が作りあげられており、会議や利用者・家族アンケートの機会に、日々のサービスについて振り返りを行い、理念を共有し、理念が実践に活かされるよう取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者ごとに町内会に加入し、盆踊りや敬老会、町内清掃などの行事に参加されている他、コンサート、お祭り等のホーム行事への参加を地域に呼びかけるなど、積極的に地域との交流が図られています。また、ホーム内に地域住民が利用できる広場や地域の障害者が働く場所があり、ホームの機能を地域に還元し、地域とともに暮らしていく環境づくりがすすめられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員によって定期的に行われている運営委員会において、自己評価をもとに、サービスの質向上に向けた話し合いが行われています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者代表、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター等の参加のもと、2か月に1回開催されています。サービスの実情や自己評価の取り組み等についてさまざまな立場から積極的に意見交換が行われており、協働してサービスの質向上に努められています。		課題や目標に対しては結果だけではなく、取り組みの過程も重要なステップとなります。運営推進会議において、外部評価結果の報告についても行い、サービスの質向上に向けた意見やアイデアを参加者からもらい、検討するなど、さらにステップアップした取り組みとされることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所内に地域包括支援センターがあり、支援センターを通じた連携を図りながら情報を共有し、サービスの質向上につなげられています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行されている「家族便り」や「ほのぼの伝言板」において、利用者の暮らしぶりや行事の報告が行われています。また、家族の訪問時には、利用者の生活の様子や金銭管理の報告が行われており、家族の安心感につながる支援が行われています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の訪問時などを利用して積極的に意見の汲み取りに取り組まれている他、直接、事業所には言いにくい意見は、家族会を通して伝えてもらうなど、意見が言いやすいよう配慮されており、家族の意見を前向きに捉え、サービスの質の確保・向上に反映されるよう取り組まれています。		「家族会」や「家族便り」を通して、家族との交流が積極的に行われていますので、今後も、家族が意見を表しやすい雰囲気づくりや意見が言える選択肢を増やしていく取り組みをすすめられることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	総合的な施設であり、人事異動はありますが、異動によって生じる利用者への影響を最小限に抑えるため、利用者の状態を把握したうえで、徐々に交代できるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修の参加の声かけが積極的に行われており、職員が自ら意欲をもってケア技術の向上に取り組めるよう、働きかけが行われています。また、働きながら学ぶという姿勢を大切にされており、業務の中で技術の指導や研鑽に努め、ケアのスキルアップに取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者の理解のもと、同業者との交流の機会が確保されており、同業者への職員派遣や地域のネットワークを利用して勉強会を行うなど、サービスの質向上に向けて積極的な取り組みが行われています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に利用者の希望や生活習慣等の把握に努められており、利用者・家族と相談のうえで、利用前に見学を行うなど、ホームになじみながら、安心してサービスの開始が行えるように配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの生活は家庭生活の延長であることを意識し、利用者との信頼関係を大切に支援が行われており、一人ひとりの個性を理解し尊重しながら、お互いをいたわり、支えあう関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望の把握を行い、個人ノートに記録されています。そのうえで、把握した思いや希望が日々の生活の中で活かされるように、利用者それぞれの生活上の目標が設定され、名前を書く練習や買い物の際にお金を支払うなどの取り組みが行われています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を把握したうえで、その人らしい暮らし方を実現するための計画が、家族や医療関係者、職員間で話し合われています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況の変化に応じて、ケア会議などで介護計画の見直しが行われており、利用者や家族の意向の確認を行いながら、利用者の状況に応じて、実際の介護場面に対応した介護計画を作成されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養や地域包括支援センター等の豊富な経験をもつ職員と連携を図りながら、総合施設の多機能性を活かし、利用者や家族のニーズに柔軟に対応されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、利用者や家族の希望に沿った、医療がうけられるよう支援されています。また、主治医による週1回の往診や必要に応じて医療機関への受診も促されており、利用者の健康を守る体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、定期的に話し合いの機会が持たれており、医師や看護師、職員全員が方針を共有するよう努められています。また、家族に利用者の状況を説明するとともに、意向の把握に努めながら、利用者・家族が納得したうえで、安心してサービスを利用できるよう取り組まれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格や尊厳を大切に、日々の関わりの中で穏やかな言葉かけが行われていました。また、記録など個人情報の取り扱いについても、細心の注意が払われており、利用者のプライバシーを守る姿勢が徹底されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの趣味や得意なことを大切にしながら、生きがいや張り合いのある暮らしの支援に取り組まれており、利用者の体調に配慮しながら、1日1日をその人らしく過ごせるように働きかけが行われています。また、法人内託児所の幼児と一緒にホールで礼拝を行い、法話を聴くなど、世代間の交流を図りながら、心の安らぎがもてる時間を確保されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルには、利用者一人ひとりのなじみの湯飲みや箸が準備されており、食事の準備や後片付けなど、利用者のできることが活かせるよう場面づくりが行われています。また、ホームで収穫された食材が調理されており、食事という一連の作業を通して、利用者が役割や楽しみを実感できるよう工夫されており、これらの取り組みが食事の際の話題の一つにもなっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	施設で井戸が掘られており、ラドンを多く含む水質のよい水が入浴に使用されています。利用者の体調を配慮しながら、一人ひとりの希望に応じた時間帯での入浴に取り組まれており、いつでも利用できる温泉水は、医療的効果とともに、利用者の楽しみとくつろぎへつながっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みの把握に努められており、園芸作業や陶芸教室など利用者が楽しみや気晴らしをする場面づくりが積極的に取り入れられています。園芸作業でつくった食材を食事の楽しみの一つとしたり、利用者のつくった陶芸作品を玄関に展示するなど、楽しみごとに意味をもたせることで、利用者のその人らしさや活力を引き出すきっかけづくりとされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩が日課になっていますが、その日の気分によって、歩きたいコースをその人のペースで散歩されており、利用者の「その日」の思いや気分に合わせて、利用者主体の支援が行われています。また、ホーム周辺には、ビオトープが整備され、季節の花が植えられている他、池に泳ぐめだかの姿を見ることもでき、外出の楽しみづくりと利用者の五感への働きかけが行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけず、職員の見守り等で利用者の安全に配慮されています。また、利用者の居室のベランダから直接庭に出ることができるため、鍵の工夫や生垣の整備など、利用者の安全を確保しながら生活に違和感を感じないよう工夫されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練が毎月実施されており、災害時の対応について実践的な取り組みが行われています。また、ホームが地域住民の避難場所ともなるため、備蓄品等の確保や地域との協力、支援体制が整備されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分の摂取量や栄養状況が健康チェック表に毎日記録されており、看護師と連携を図りながら、利用者の状況に応じた栄養摂取や水分確保の支援に努められています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は和風の格子を取り入れた上品な造りで、季節の花や利用者の制作した陶芸品が飾られており、落ち着きとやすらぎのある空間となっています。居間の各コーナーにはソファが配置されており、利用者にとって心地よい居場所づくりがすすめられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者のなじみのある家具や道具が置かれている他、利用者の希望に応じて畳敷きの和室を用意するなど、自宅にのような雰囲気を利用者が感じられるよう工夫されています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームじこう

評価年月日 19 年 9 月 1 日

記入年月日 19 年 9 月 1 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 坂本 八重子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	“・老後に生きがいを”		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	グループホーム基本方針 ・ 個別ケアの充実 ・ アットホームなGH ・ 職員間の連携		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・ 町内会加入 施設行事への参加の促し 地域推進委員会 (2ヶ月1度) ・ 施設報発行		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・ 近隣、家族、ボランティアの方から情報を頂き 季節の行事等に参加 田植・れんげ摘み・野イチゴ摘みなど季節を感じて頂いている	○	・ 情報により出向くばかりではなく 施設の行事にも参加して頂く働きかけ 盆踊り、運動会等
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・ 町内会に加入した事により情報も得やすくなり、盆踊り・敬老会にも出席し町内清掃などにも積極的に参加している	○	現在の取り組みの継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・施設の催しである開園記念日・野外コンサートなど自由参加して頂いている		今後も機会を多く作り町内会を通じ広めて行きたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を真摯に受けとめ関係部間で話し合い改善策を見つけている		継続 ・定期的御家族等のアンケートを取る
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開き町内会代表・御利用者・御家族の参加を頂き情報交換や報告を行っている		継続
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行えていない	○	今後情報収集をし取り組みたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員に対しては研修等により理解を得（不十分）必要な利用者には適切な対応を行っている		10/29 権利擁護相談会開催 成年後見制度利用者一名
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関しては研修参加や施設内の勉強会などで話し合い理解している	○	マニュアル作成し日々の対応についても話し合って行きたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項を用い説明し家族会など意見を出して頂ける場を作っている	○	・個々の思いなど面会時に伺う様務める
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	特に機会を設けてはいないが不満・苦情等があれば適切に対応 (コミュニケーションの中で見つけ出す)	○	利用者との日々の関わりの中で気がねなく言える環境作りが出来る様配慮したい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時又は金銭管理に対しては請求書送付時に明記し必要に応じ個々に連絡又、年間 4 回施設報を発行し伝える		継続
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を通じ行っている	○	必要であれば随時伺い適切に対応したい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会などを利用し意見や提案を聞き記録を運営者に提出、緊急事項については直接報告		継続
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じ調整 申し送り・連絡ノートを活用している		職員の意見も聞き状況にあった対応が出来る方法を話し合いたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	常にすべてに関する㈱コミュニケーションを図っており現在は特に問題はない		必要に応じ対応策を講じる
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々に合った研修に参加している		必要・内容により多くの職員が研修に参加出来る様行い施設内に持ち帰り業務に反映させたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修・福祉士会などで情報交換を行っている		機会があれば積極的参加したい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	行事として職員旅行・忘年会・新年会とコミュニケーションの機会を図る		日々のストレスの訴えが出来る様な信頼関係作り図る
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	年に一度自己評価を行い向上心を高める様勉強会を行っている (月に一度定例会)		継続
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	関わりの中で見つけ出し適切な対応を行っているが不十分な点もあると思われる		信頼関係の構築

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時利用者の状況をお話すると共に、相談意見等を伺う（発言しやすい雰囲気作り）		継続
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じ各関係機関と連携を取り適切な対応を心掛けている		継続
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族と相談し必要であれば事前に施設を見て頂きケアマネ又御家族の細かな情報収集家庭の延長作りに心掛けている	○	入所前の事前調査等の密に行う (不安の軽減)
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭の延長である生活を心掛け信頼関係を作り何事も一緒に思いの共有に務めている	○	思いを受容した援助を心掛けて行きたい
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	盆踊りや運動会に家族を招き家庭といっしょに楽しむ		継続
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	多くの情報を頂き対応すると同時に入所後も家族関係が続く様面会や外出・外泊の機会を設けて頂ける様働きかける	○	家族が施設へ多く足を運べる行事など企画する

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽にホームへも来て頂き外出・外泊もして頂く必要に応じては近況を伝えたり電話対応も行う		馴染みの場所におつれするなど対応したい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	共通の話題を提供したり皆がいっしょに行える手作業など見つけ 1ヶ所に集まれる様心掛けしている		利用者同志が支えられる環境作りをする (内容により教えたり教えられたりと相乗効果)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行っていない (家族が必要としていない)		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いの把握に常に努めている		家族の声なども面会時伺い必要に応じて対応
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前の聞き取りを行っているが不十分		ケアマネ、家族との情報を多く得ると同時に事前訪問を実施したい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の気持ちを尊重し対応しているが不十分を面もあると思われる		精神面・身体面を考慮しながら御本人にベストな過ごし方を見つけだしたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本位で課題を見つけ御本人・ワーカー・御家族の意見なども伺い介護計画に反映させている		家族会などを利用し意見を伺いながら柔軟な対応を心掛ける
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しが生じた場合、ケア会議などで話し合い適切な介護計画を作成		家族にも連絡し理解を頂き意見等も伺う
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特変やケアプラン実施又日々の記録など日誌・ケース記録・連絡ノートを利用しているが不十分（未完成）		わかりやすく状況が把握出来る記録方法を作成中

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体を中心に地域と関わり多機能性を生かした支援を行っている。		
----	--	--------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在では外部の誘いにより利用者の適正に合わせ参加している（施設内で対応可能な物）		広く情報収集し多くの機会を作りたい
----	---	--	--	-------------------

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	特になし		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域推進会議に利用者・御家族の参加得ているのみにすぎない		人材擁護相談会 10/29 開催予定
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	主治医より週一回の往診適切な対応 又 御家族にも状況を伝え相談対応している		必要機関（病院）の受診を促す
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の著じるしい症状が表われた時は家族と相談し専門医の受診支援		・ 継続 ・ 定期的健康診断
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設内の看護職員の協力を得、日々の健康管理に努め ワーカー・ナース・医師と連携を取っている		・ 2ヶ月に一度のNSとの情報交換 継続
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先へ出向いたり御家族の情報を得ている		継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	日常又定期的にNSと会議の機会を作り家族に状況を説明すると同時に適切な対応を心掛けている		継続
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	必要に応じ話し合いの場を設け御家族の対応を聞きながら対応		終末ケアに対する理解、対応について勉強して行きたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	特に行っていない (事例なし)		必要に応じ対応
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	常日頃心掛ける様務めている		日常を再確認し向上をめざす
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合った対応を心掛け思いを引き出す働きかけを行っている		継続
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	精神的・身体的な面に配慮しながら御本人にとって有意義な一日を過ごして頂けるかを考えている		継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	整容に対しては御自分で又御家族の希望があればそのつど対応（家族持参） 散髪は毎日一度理容師が来られます		継続
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ランチョンマット・箸置など使用し食器なども御本人の好みADLに合ったものにする様に心掛け 準備・片付など共に行い役割分担を行っている		継続
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物については各自好みに合わせ、施設のおやつに加えお菓子など購入できる様支援している (買物同行・売店利用)		酒・タバコについては現在では希望はないが必要に応じ対応する
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各自排泄の記録に元づき判断又要望に対応している		確実な排泄パターンの周知
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一応取り決めはあるが希望に応じ支援。 夜間浴にも対応		継続
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	状況に応じ対応 意志伝達の出来ない方は職員が配慮		継続

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や力を活かしての役割分担や楽しみを支援している (職員と一緒にやる)		継続
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少人数の方のみお金を管理し時には買物に同行。家族の希望者については預り金として出納帳に名記管理している		継続
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	園外散歩・外へ向けての行事・地域のお誘いと出来るだけ支援し時間の許す範囲でドライブなど出かけている		継続
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	要望があれば対応し春の花見・秋の紅葉ドライブと家族の参加を促している		継続
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望に対応支援している		継続
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問しやすい環境作りを心掛けている (居室・ホール・喫茶など自由に利用)		継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の身体状況を把握し適切な介護を行っている		・ ベット柵は最小限使用 ・ フロアーでは車イスよりイスに座りかえている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	常に開放し利用者の所在の把握に心掛けている (センサー設置・夜間のみ玄関施錠)		継続
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に把握に心掛け安全に配慮している		入浴時など職員が手薄になった時に特に気を配る
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険の伴う物の管理を徹底し 必要な物品に対しては利用者の使用時気を配る (手洗い洗剤)		継続
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し利用者の状態を常に把握しN s と連携を保ちながら起りうる事故防止に努めている		・ 月一度の防災訓練の実施 ・ 事故発生時のマニュアル（行不明） ・ 定期的対応の確認（インシデントの活用）
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルを作成し定期的な勉強会をN s 参加を求め実施		・ 定期的実践訓練の実施

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災・火災訓練は毎月行っている		事業所の視点で検討
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	常に情報を提供し理解を得る様務めている		継続
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックに始まり特変についてはNsと連携対応し時間別の記録なども行っている (連絡ノート・申し送りなどで情報共有)		継続
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服薬状況を一覧表にいつでも見られる様にしている		服薬変更の確認の徹底
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎朝の体操・無理のない様日常生活の中での動きで腸の働きを促し排便表に記入し必要に応じNsの指示を仰ぐ (水分量・時にはヨーグルト・バナナなど購入)		リハビリも兼ね少しづつ体を動かす量を増す
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・夕必ず口腔ケアを行って頂き点検し又自分では行えない方の介助をしている (入歯ポリデント使用)		昼のみ声掛けのみに留めていたが確認を必ずする

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	適切な量を把握し又食事 水分量など記録しているが水分量が少し不足気味 (ナースと連携)		水分量に対しては常に心掛けているが目先のかかった物で多く摂取できる様工夫したい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	インフルエンザは予防接種を行い、感染症についてはマニュアルを活用し発生した感染症については改め回覧等している		マニュアルの充実化
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗いなど常に意識しており食器などは食洗器使用		台所・調理用具の消毒液を検討
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	常に玄関を開放し庭には季節の花や野菜室内には山野草など華美にならない花を生け安らげる雰囲気作りを心掛け、金魚など水槽で飼い出入時楽しんで頂く		利用者・御家族など意見を出して頂く
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔が保てる様務めている 季節感のある空間作りを心掛けている		継続

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのテーブルも2ヶ所に分けられイスも多く準備し思い思い過せる様に工夫（畳の間あり） 時には庭にカラオケルームにも職員が誘導		継続
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた家具など持って来て頂き家庭の延長作りを家族の協力を得ながら工夫している		継続
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に換気を行い利用者の体調に合わせ温度調節に気を配っている (必要に応じ芳香剤も使用)		継続
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗面所・トイレ・浴室等に手すりなど多くし安全にも配慮		必要に応じ対応
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の不安となる物に対し工夫しているが不十分な面も見られる (ボード・目印し)		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外の庭には季節の野菜や花を植え収穫の喜びを共有		継続

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームじこう

評価年月日 19 年 9 月 1 日

記入年月日 19 年 9 月 1 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 坂本 八重子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	“・老後に生きがいを”		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	グループホーム基本方針 ・ 個別ケアの充実 ・ アットホームなGH ・ 職員間の連携		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・ 町内会加入 施設行事への参加の促し 地域推進委員会 (2 ヶ月 1 度) ・ 施設報発行		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・ 近隣、家族、ボランティアの方から情報を頂き 季節の行事等に参加 田植・れんげ摘み・野イチゴ摘みなど季節を感じて頂いている	○	・ 情報により出向くばかりではなく 施設の行事にも参加して頂く働きかけ 盆踊り、運動会等
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・ 町内会に加入した事により情報も得やすくなり、盆踊り・敬老会にも出席し町内清掃などにも積極的に参加している	○	現在の取り組みの継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・施設の催しである開園記念日・野外コンサートなど自由参加して頂いている		今後も機会を多く作り町内会を通じ広めて行きたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を真摯に受けとめ関係部間で話し合い改善策を見つけている		継続 ・定期的御家族等のアンケートを取る
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を開き町内会代表・御利用者・御家族の参加を頂き情報交換や報告を行っている		継続
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行えていない	○	今後情報収集をし取り組みたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員に対しては研修等により理解を得（不十分）必要な利用者には適切な対応を行っている		10/29 権利擁護相談会開催 成年後見制度利用者一名
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関しては研修参加や施設内の勉強会などで話し合い理解している	○	マニュアル作成し日々の対応についても話し合って行きたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項を用い説明し家族会など意見を出して頂ける場を作っている	○	・個々の思いなど面会時に伺う様務める
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	特に機会を設けてはいないが不満・苦情等があれば適切に対応 (コミュニケーションの中で見つけ出す)	○	利用者との日々の関わりの中で気がねなく言える環境作りが出来る様配慮したい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時又は金銭管理に対しては請求書送付時に明記し必要に応じ個々に連絡又、年間 4 回施設報を発行し伝える		継続
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を通じ行っている	○	必要であれば随時伺い適切に対応したい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会などを利用し意見や提案を聞き記録を運営者に提出、緊急事項については直接報告		継続
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じ調整 申し送り・連絡ノートを活用している		職員の意見も聞き状況にあった対応が出来る方法を話し合いたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	常にすべてに関する㈱コミュニケーションを図っており現在は特に問題はない		必要に応じ対応策を講じる
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々に合った研修に参加している		必要・内容により多くの職員が研修に参加出来る様行い施設内に持ち帰り業務に反映させたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修・福祉士会などで情報交換を行っている		機会があれば積極的参加したい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	行事として職員旅行・忘年会・新年会とコミュニケーションの機会を図る		日々のストレスの訴えが出来る様な信頼関係作り図る
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	年に一度自己評価を行い向上心を高める様勉強会を行っている (月に一度定例会)		継続
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	関わりの中で見つけ出し適切な対応を行っているが不十分な点もあると思われる		信頼関係の構築

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時利用者の状況をお話すると共に、相談意見等を伺う（発言しやすい雰囲気作り）		継続
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じ各関係機関と連携を取り適切な対応を心掛けている		継続
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族と相談し必要であれば事前に施設を見て頂きケアマネ又御家族の細かな情報収集家庭の延長作りに心掛けている	○	入所前の事前調査等の密に行う (不安の軽減)
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭の延長である生活を心掛け信頼関係を作り何事も一緒に思いの共有に務めている	○	思いを受容した援助を心掛けて行きたい
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	盆踊りや運動会に家族を招き家庭といっしょに楽しむ		継続
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	多くの情報を頂き対応すると同時に入所後も家族関係が続く様面会や外出・外泊の機会を設けて頂ける様働きかける	○	家族が施設へ多く足を運べる行事など企画する

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽にホームへも来て頂き外出・外泊もして頂く必要に応じては近況を伝えたり電話対応も行う		馴染みの場所におつれするなど対応したい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	共通の話題を提供したり皆がいっしょに行える手作業など見つけ 1ヶ所に集まれる様心掛けしている		利用者同志が支えられる環境作りをする (内容により教えたり教えられたりと相乗効果)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行っていない (家族が必要としていない)		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いの把握に常に努めている		家族の声なども面会時伺い必要に応じて対応
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前の聞き取りを行っているが不十分		ケアマネ、家族との情報を多く得ると同時に事前訪問を実施したい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の気持ちを尊重し対応しているが不十分を面もあると思われる		精神面・身体面を考慮しながら御本人にベストな過ごし方を見つけだしたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本位で課題を見つけ御本人・ワーカー・御家族の意見なども伺い介護計画に反映させている		家族会などを利用し意見を伺いながら柔軟な対応を心掛ける
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しが生じた場合、ケア会議などで話し合い適切な介護計画を作成		家族にも連絡し理解を頂き意見等も伺う
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特変やケアプラン実施又日々の記録など日誌・ケース記録・連絡ノートを利用しているが不十分（未完成）		わかりやすく状況が把握出来る記録方法を作成中

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体を中心に地域と関わり多機能性を生かした支援を行っている。		
----	--	--------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在では外部の誘いにより利用者の適正に合わせ参加している（施設内で対応可能な物）		広く情報収集し多くの機会を作りたい
----	---	--	--	-------------------

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	特になし		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域推進会議に利用者・御家族の参加得ているのみにすぎない		人材擁護相談会 10/29 開催予定
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	主治医より週一回の往診適切な対応 又 御家族にも状況を伝え相談対応している		必要機関（病院）の受診を促す
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の著じるしい症状が表われた時は家族と相談し専門医の受診支援		- 継続 - 定期的健康診断
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設内の看護職員の協力を得、日々の健康管理に務め ワーカー・ナース・医師と連携を取っている		2ヶ月に一度のNSとの情報交換 継続
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先へ出向いたり御家族の情報を得ている		継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	日常又定期的にNSと会議の機会を作り家族に状況を説明すると同時に適切な対応を心掛けている		継続
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	必要に応じ話し合いの場を設け御家族の対応を聞きながら対応		終末ケアに対する理解、対応について勉強して行きたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	特に行っていない (事例なし)		必要に応じ対応
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	常日頃心掛ける様務めている		日常を再確認し向上をめざす
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々に合った対応を心掛け思いを引き出す働きかけを行っている		継続
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	精神的・身体的な面に配慮しながら御本人にとって有意義な一日を過ごして頂けるかを考えている		継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	整容に対しては御自分で又御家族の希望があればそのつど対応（家族持参） 散髪は毎日一度理容師が来られます		継続
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ランチョンマット・箸置など使用し食器なども御本人の好みADLに合ったものにする様に心掛け 準備・片付など共に行い役割分担を行っている		継続
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物については各自好みに合わせ、施設のおやつに加えお菓子など購入できる様支援している (買物同行・売店利用)		酒・タバコについては現在では希望はないが必要に応じ対応する
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	各自排泄の記録に元づき判断又要望に対応している		確実な排泄パターンの周知
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一応取り決めはあるが希望に応じ支援。 夜間浴にも対応		継続
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	状況に応じ対応 意志伝達の出来ない方は職員が配慮		継続

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や力を活かしての役割分担や楽しみを支援している (職員と一緒にやる)		継続
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少人数の方のみお金を管理し時には買物に同行。家族の希望者については預り金として出納帳に名記管理している		継続
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	園外散歩・外へ向けての行事・地域のお誘いと出来るだけ支援し時間の許す範囲でドライブなど出かけている		継続
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	要望があれば対応し春の花見・秋の紅葉ドライブと家族の参加を促している		継続
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望に対応支援している		継続
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問しやすい環境作りを心掛けている (居室・ホール・喫茶など自由に利用)		継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の身体状況を把握し適切な介護を行っている		・ ベット柵は最小限使用 ・ フロアーでは車イスよりイスに座りかえている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	常に開放し利用者の所在の把握に心掛けている (センサー設置・夜間のみ玄関施錠)		継続
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に把握に心掛け安全に配慮している		入浴時など職員が手薄になった時に特に気を配る
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険の伴う物の管理を徹底し 必要な物品に対しては利用者の使用時気を配る (手洗い洗剤)		継続
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し利用者の状態を常に把握しN s と連携を保ちながら起りうる事故防止に努めている		・ 月一度の防災訓練の実施 ・ 事故発生時のマニュアル（行不明） ・ 定期的対応の確認（インシデントの活用）
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルを作成し定期的な勉強会をN s 参加を求め実施		・ 定期的実践訓練の実施

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災・火災訓練は毎月行っている		事業所の視点で検討
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	常に情報を提供し理解を得る様務めている		継続
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックに始まり特変についてはNsと連携対応し時間別の記録なども行っている (連絡ノート・申し送りなどで情報共有)		継続
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服薬状況を一覧表にいつでも見られる様にしている		服薬変更の確認の徹底
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎朝の体操・無理のない様日常生活の中での動きで腸の働きを促し排便表に記入し必要に応じNsの指示を仰ぐ (水分量・時にはヨーグルト・バナナなど購入)		リハビリも兼ね少しづつ体を動かす量を増す
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・夕必ず口腔ケアを行って頂き点検し又自分では行えない方の介助をしている (入歯ポリデント使用)		昼のみ声掛けのみに留めていたが確認を必ずする

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	適切な量を把握し又食事 水分量など記録しているが水分量が少し不足気味 (ナースと連携)		水分量に対しては常に心掛けているが目先のかかった物で多く摂取できる様工夫したい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	インフルエンザは予防接種を行い、感染症についてはマニュアルを活用し発生した感染症については改め回覧等している		マニュアルの充実化
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗いなど常に意識しており食器などは食洗器使用		台所・調理用具の消毒液を検討
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	常に玄関を開放し庭には季節の花や野菜室内には山野草など華美にならない花を生け安らげる雰囲気作りを心掛け、金魚など水槽で飼い出し時楽しんで頂く		利用者・御家族など意見を出して頂く
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔が保てる様務めている 季節感のある空間作りを心掛けている		継続

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのテーブルも2ヶ所に分けられイスも多く準備し思い思い過せる様に工夫（畳の間あり） 時には庭にカラオケルームにも職員が誘導		継続
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた家具など持って来て頂き家庭の延長作りを家族の協力を得ながら工夫している		継続
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に換気を行い利用者の体調に合わせ温度調節に気を配っている (必要に応じ芳香剤も使用)		継続
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗面所・トイレ・浴室等に手すりなど多くし安全にも配慮		必要に応じ対応
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の不安となる物に対し工夫しているが不十分な面も見られる (ボード・目印し)		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外の庭には季節の野菜や花を植え収穫の喜びを共有		継続